

いじめ問題に立ち向かう

予防教育⑦

「予防教育の光景」この予防教育の教材と運営は豪華極まる。どこで、誰が作っているのか。早速、センタ―に出掛けてみた。

教材作成室、教育開発室
：興味をそその部屋が並ぶ。教材作成室に入ってみ

た。おっと、広めの部屋に8人はいるな。どこかいフ

リンター、何台ものパソコン。イラスト作成、音楽編

集、教材の切り貼り、活気に満ちた作業ぶりだ。セン

ターには総勢40人ほどのスタッフが

いる。教材保管場所に移る。天井まで届く3列の棚

に上下びっしり教材の壁。これはすごい。驚いて見

ていると、「学校でも作れますよ」とほほ笑み返した。自信ありげな物言いだ。

▼誰もが学者だ、6年生！前回から、小学6年生の

「感情の理解と対処の育成」の2時間目を紹介して

いる。最も大切な活動クイズが続き。

を分析する学者だ。

さて、質問・回答タイム。「どちらが〇〇でしょ

うクイズ！」、授業者が声を張り上げ、割れんばかり

の拍手。子どもたちの目が輝き出した。ゲームに勝

ば発表だというのに、発表へのためらいなどみじんも

ない。

クイズ交え「人の気持ち」で質疑

⑤活動クイズ マックス 黒板には、気持ちカードの貼り付いた円環モデルシートがグループごとに並んでいる。授業者は、気持ちカードの貼り方のグループ間の違いに手際良く注意を向ける。その後、各グループは、黒板の円環モデルを見て、質問したいグループ二つにグループカードを貼りに出る。同時に、質問内容を手元のシートに書く。どのグループも、頭を寄せ、口角に泡を飛ばし、話し込んでいる。まるで、気持ち



発表へとゲームに興ずる(徳島県鳴門市鳴門東小学校)



授業の終盤時、黒板の様子

映像が徐々に現れ、問われると、「チェンジタイム題が見え出す。「太陽と地球、どちらが熱い？」。グループの机上に置かれた2本の旗が瞬時に上がる。「Bグループが早かった！」。授業者がさかさす指名。ピンポイント。正解したら、即座に質問。一人が立って、堂々と質問。他の授業では発言などしない児童が、質問されたグループは、その理由をはきはき答える。子どもが問い、答え

る動きを何が支えるのか、この教育はしかと押さえている。

「ダブルポイントチャンス！」。ボルテージが上がる。「シロナガスクツラと象、どちらが重い？」。たわいもない質問だが、その映像の出方の妙が早い。しのぎを削っての早上げもよい。たまたに質疑はもめて、言い合いになる。それもまた楽しく、頼もしい。

質問がひとしきり終ると、「チェンジタイム！」。貼った場所を変えたグループはないか。授業者が急かすと、走るように黒板に向かう。「そこまで！」。どうして変えたのか、間を置かず質問。またまた即答が帰ってきた。

⑥シェアリング、インセンティブ質問 授業の感想を聞き、さすがに小6にもなる。最初から教育目標にドンピシャな感想を言う。3人ほど当たると、インセ

ンティブ質問。「Aという国の人たちは、うれしいとき怒った顔をします。Bという国の人たちは、怒ったとき笑った顔をします。一

⑦終結アニメ・ストーリー あざらしは人間の働きに驚き、本当に女王を変えるかもしれないと期待を寄せ

る。あざらしの頭から雪の結晶。音響も映像もプロ仕様の出来映えで引き付け

る。⑧授業プロセスの確認 授業の型通り、教室の後ろでディスプレイを掲げ、2時間目のシートを貼る。そのシートは後で、各自のファイルノートにも貼られる。それにしても、見事に、8回の授業経緯を表現したディスプレイだ。

⑨授業で学んだことの意義 そして最後は、荘厳な音楽に乗って授業で学んだこと、その意義を重く伝える。授業の締めだ。授業者の語りの重みもさることながら、音楽の力も児童を引き付ける。授業中に流れる音楽も、この教育のオリジナ

ルというから脱帽だ。